

理事長 丸川知雄（東京大学）

アジア政経学会は2016年4月1日から2017年3月31日の間、次の活動を行った。

1.大会の開催

2016年6月18日～19日に春季大会を日本貿易振興機構アジア経済研究所（千葉市）で開催した。会場の関係から共通論題を設けなかったが、会員からの応募に基づく自由論題のセッション8つ、自由応募分科会を4つ、企画分科会として「台湾・民進党新政権の今後と東アジア」が実施された。19日には近隣の幕張国際研修センターに会場を移し、樫山奨学財団の助成による樫山セミナー（国際シンポジウム）「中国研究と中国の将来—日欧研究者の対話—」China Study and the Future of China: Dialogue between European Scholars and Japanese Scholars on Chinaを開催した。British Association for China Studies (BACS)から研究者2名、ポーランドのŁódź University（ウッジ大学）より研究者2名を招聘し、アジア政経学会の会員2名とともに中国の将来に関して活発な議論を行った。

2016年11月19日に秋季大会を北九州国際会議場（実行委員会は北九州市立大学）で開催した。自由論題のセッション7つ、自由応募分科会5つ、および共通論題「東アジアの経済統合と発展」を実施した。

二つの大会ともに多数の充実した報告と活発な議論が行われた。

2.海外の学会との交流

Asia Economic Community Forum (AECF、仁川)の2016年大会（11月2日～4日）でアジア政経学会から高原明生会員らが参加し、4日にアジア政経学会のセッションを催した。

International Convention of Asian Scholars（オランダのInternational Institute for Asian Studiesが主催）と賞について折衝したが、交渉は不調に終わった。

3. 学会誌の発行とJ-STAGEでの公開

学会誌『アジア研究』を以下のように刊行した。

2016年4月に第62巻第2号を刊行。論説2本、研究ノート1本、書評3本。

2016年7月に第62巻第3号を刊行。特集：ASEAN経済共同体の実現と日本

2016年10月に第62巻第4号を刊行。特集：州政治と連邦政治—インドにおける政治発展の特徴。

2017年1月に第63巻第1号を刊行。特集：中国の「台頭」と周辺の「反乱」

また刊行とともにJ-STAGEに全文が掲載されており、会員以外の人でも閲覧できる。

4.定例研究会

若手研究者の研鑽の場として少人数による定例研究会を年2~3回程度のペースで開催している。2016年9月10日と2017年3月29日に開催し、それぞれ2名の若手会員が報告した。

5.ニューズレターの発行

学会の大会などの活動状況を広報し、会員間の交流を促進する目的でニューズレターを刊行している。2016年3月31日に第45号、9月30日に第46号を刊行した。

6.優秀論文賞

第13回優秀論文賞として松村史紀「未熟な中ソ分業体制（1949-1954年）——世界労連アジア連絡局を手がかりに」『アジア研究』第61巻第1号（2015年1月）を選出し、春季大会で表彰した。

7.会員投票

2017年度からの理事・監事・評議員を決めるための基礎となる会員投票を2017年2月1~28日を投票期間として実施した。全部で231通の投票があり、締め切りを過ぎていたり、投票規則に外れるなどの理由で無効となった票がうち7通あった。

8.国際協力関係

2016年12月2日、香港教育大学において、同大学香港研究学院と本学会の研究活動での協力関係の強化を目的とする覚え書きが締結された。

9.その他

本学会元理事長で、2016年8月30日に逝去された加藤弘之教授を偲び、加藤教授の遺著を議論する「加藤弘之『中国経済学入門』との対話」を2016年11月6日に慶應義塾大学三田キャンパスにて、中国経済経営学会、日本現代中国学会と3学会合同で開催した。この催しおよび関連する催しで発表された『中国経済学入門』に対する評論は『アジア研究』の特集で公刊される予定である。

今後の大会

2017年度春季大会 2017年6月24日（土）、25日（日）

会場：一橋大学国立キャンパス

2017年度秋季大会 2017年10月21日

会場：富山大学